

平成 29 年 7 月九州北部豪雨による小鹿田焼の里の被害とその報道

九州産業大学 学生会員 ○林田直哉 九州産業大学 正会員 山下三平
久留米工業大学 大森洋子 金沢大学 丸谷耕太 龍谷大学 林珠乃

1. 序論

重要文化的景観である小鹿田焼の里は、平成 29 年 7 月九州北部豪雨で被害を受けた。復旧が急がれるとともに、多くの人々のための文化財として、中長期の視点が不可欠と思われる。そのためにまずは、窯業従事者を中心とする地元住民の意向を知るとともに、社会の関心の所在や程度を把握する必要がある。

そこで本研究は、平成 29 年 7 月九州北部豪雨による小鹿田の被害の状況を踏まえて、地元の意識を探るとともにマスコミの報道と FACEBOOK を通して、社会の関心とその変化を知ることが目的とする。

2. 研究方法

(1) 対象地域

小鹿田焼の里は、東峰村に隣接する大分県日田市に位置する(図-1)。

里山の北側後背地には国有林等が位置する。これは福岡県境界まで広がり、生活・生業を支える山林資源の採取場所や唐臼用水や棚田用水のための水源涵養機能としての役割を提供している。また、集落と一体的な景観を形成する借景地となっている¹⁾。現在 10 軒の窯元があり、小石原村から招かれた陶工の子孫である柳瀬家が 2 軒、陶工招聘の資金を出した黒木家の子孫が 3 軒、土地を提供した坂本家の子孫が 4 軒、黒木家の分家である小袋家が 1 軒である。集落の中心にある登り窯は近くの 5 軒が共同で使っている(図-2)。



図-1 対象地域(国土地理院地図より)

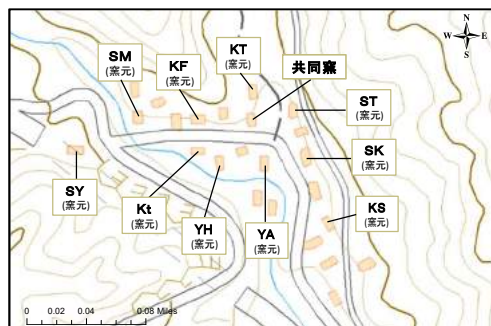


図-2 対象地域と窯元の配置(国土地理院地図より)

(2) 調査方法

平成 29 年 7 月九州北部豪雨の被災の 2 週間余りの後の 7 月 21 日に、窯元に対するヒアリングを行った。また、被災した小鹿田焼の里に対する社会の関心と動向を調査するために、平成 29 年 7 月 6 日～11 月 30 日の全国紙の新聞ならびに西日本新聞の報道と、FACEBOOK の全 81 件の情報を読み取り、それぞれテーマ別に分け、時系列とともに比較した。

3. 結果と考察

(1) 被害状況

ヒアリングによれば小鹿田は重要文化的景観保存地域に含まれ、皿山地区の後背農地である。池ノ鶴地区においては、水が畔越しに押し寄せ、タズワラノ川は土石流により氾濫した。平成 24 年の水害後に整備されたタズワラノ川沿いの防火用水槽が土砂に埋まり、重要な景観要素である土蔵の壁にヒビが入るなどした。住民は避難せずに自室に待機する中、床下が浸水し、ある家では、生け簀が土砂で埋まり、飼っていたコイがすべて流された。

一方、窯元が位置する皿山地区では、平成 24 年の水害に比べはるかに大きな被害であったため、唐臼小屋が膝まで水につかってしまい、その後、水路が土砂で埋まり唐臼に水が来ない状況となった。そのため、昭和 37 年から始まり、毎年行われる民陶祭が危惧された。また、小鹿田の共同窯を含む窯元 10 件の被害軒数をまとめると図-3 のようになる。すべて被害があるがバラツキが見られる。YA 窯元は被害が最も多く、YH 窯元は被害が最も少ない。YA 窯元は河川の水衝部に位置し、YH 窯元はその内側にあるためと思われる。

(図-1)。

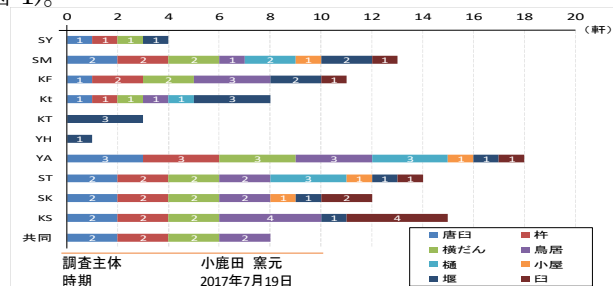


図-3 窯元の被災直後の状況(日田市提供)

(2) 小鹿田焼の里の被害と復旧

被災した小鹿田周辺の被害と復旧の状況についてマスコミと FACEBOOK により情報を集めた。その結果、月別のマスコミの報道回数と FACEBOOK によるコメント数は、被災発生時に比べ徐々に減少していることがわかる(図-4)。さらに、毎日新聞と西日本新聞以外の報道は少なく、小鹿田の状況は、あまり全国的には知られてないのではないだろうか。

また、得られた情報を2つのテーマにまとめた(表-1)。7月は、大雨による土砂崩れの影響で、小鹿田への県道が寸断されるなどの被害状況についての報道が主である。この時期に小鹿田焼共同組合で復興の支援を募るサイトが開設された。各施設では募金箱が設置され、小鹿田焼陶芸館は救援物資の配布場所などとして機能し、支援活動を始めた。

8月は、唐臼の破損により作陶ができず、民陶祭に向けた窯焚きが間に合わないことや、小鹿田地区へ通じる道が壊れ、一部で交通規制が続いた。来訪者の安全を考慮した結果、小鹿田焼協同組合の坂本工理事長は、民陶祭の中止を発表した。また、大分県は、小鹿田焼業者ら小規模事業者を幅広く支援する目的で1億2千万円を計上した。

9月は、農林業の被害額が60億円越え、観光業や文化財にも被害を受けた。

10月は、天皇・皇后両陛下の訪問など支援活動を中心とした報道があった。FACEBOOKによると、小鹿田は比較的普段の様子を取り戻されていたように見えたが、道路の陥没などもあり、完全復旧はまだ先のようであった。

11月は、被災した窯元によって被害の大きさは異なるが、窯焚きまで再開できるようになっているところもある。小鹿田共同組合公式ページでは、日田市内から小鹿田へ通じる県道は、修復工事が進み、一部区間で運休していたバスの利用が可能となった。

(3) 地元の意向と報道

以上のように、窯元の代表者は例年行われて多くの人手で賑わった秋の民陶祭を中止した。その一方で、民陶祭の時期である10月上旬にあわせて、一早く窯焚きを再開した窯元もある。ここには、来訪客に対する窯元間での依存意識の違いが現れていると考えられてい

る。他方、報道については、当然のことながら日を追って数が減少する。また来訪客の視点は必ずしも扱われていない。

重要文化的景観の制度は必ずしも生活者の利便を制約して景観の維持・保全を求めるものではない。重要文化的景観である小鹿田焼の里の今後のあり方については、地元の意向に加えて来訪客の意見をいかに反映させるかが大きな課題と考えられる。

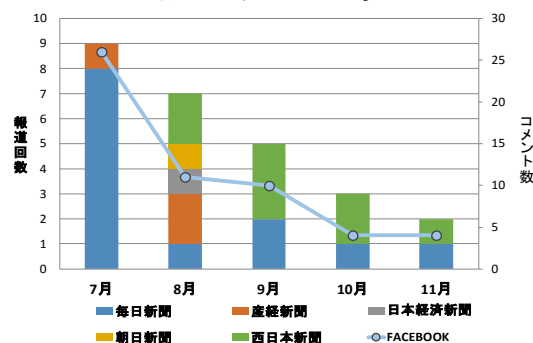


図-4 マスコミの報道回数とFACEBOOKによるコメント数(7月6日~11月30日)

表-1 被害と復旧の変遷

月/テーマ	被害	支援活動	主な報道
7月	土砂崩れで道路が寸断 久大線で光岡(てるおか)～日田間の「花月川橋りょう」が流石 小野地区にある鹿鳴庵から3キロ下流で大規模な土砂崩れが発生しダム湖になった 土砂崩れで被害大 唐臼が多数破損 SM窯元は1号窯が潰された 日田市で、観光に影響が出ている	日田市災害ボランティアセンターを開設 小鹿田焼陶芸館は救援物資の配布場所などとして機能 小鹿田焼共同組合で復興の支援を募るサイト開設 小鹿田焼協同組合が、支援金を募る 各施設の募金箱の設置	被害状況
8月	九州北部を襲った豪雨は道路を寸断し、福岡、大分県まで数ヶ所が孤立、小鹿田焼窯は1週間閉鎖した 小野川の土砂崩落により、3名の死亡が確認された 被災地では犠牲者へ慰霊(もくとう)がさげられ、行方不明者の捜索が続いた 事業所や商品が水に漬かるなどの被害が2億円を超える 小鹿田焼協同組合の坂本工理事長は民陶祭中止を発表	観光客のために「インスタ映え」を目的とした支援 日田市の小鹿田焼業者ら小規模事業者を幅広く支援する目的で1億2千万円を計上	民陶祭の中止(伝統行事)
9月	農林業の被害額は60億円を超え、観光業や文化財も被害を受けた	JAふくしま未来(福島市)から特産の白桃「ゆうぞら」150箱計250キロが、災害ボランティア団体「ひらくボランティアセンター」や、被災した小鹿田焼の里などへ力所に配られた	被害額
10月	小鹿田は比較的普段の様子を取り戻されていたように(表面上は)見えたが、道路の陥没などもあり、完全復旧はまだ先のよう	九州豪雨で被害を受けた日田市を10月27日、天皇、皇后両陛下が訪問	天皇・皇后両陛下の訪問
11月	窯元によって被害の大きさが異なるが、窯焚きまで再開できるようになっているところもある	ライオンズクラブ国際協会337-1日地区(大分、宮崎県内69クラブ)の測野二三世がバナーから小鹿田焼協同組合に400万円の義援金	復興状況

4. まとめ

本研究は、伝統的技法を継承してきた重要文化的景観である小鹿田焼の里において平成29年7月九州北部豪雨の状況と報道を調べ、今後のあり方を考察した。

重要文化的景観である小鹿田焼の里の復興においては、社会の関心の動向を踏まえながら、来訪客の関心・視点を取り込むことが、今後、重要になることが明らかになった。

謝辞：本研究を進めるにあたり、ご協力頂いた小鹿田の窯元の皆さまならびに関係住民の皆様にご感謝の意を表し、心から御礼申し上げます。本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究C)として、「小石原焼と小鹿田焼の里における文化的景観表象の分析と評価(代表者:山下三平)」の研究として行われたものである。

【参考文献】

- 1) 日田市：小鹿田焼の里文化的景観保存計画(第3版), 2010.